

第7回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成27年1月20日
- 会 場 青梅信用金庫本店 1F ギャラリー
- 審査委員 委員長：佐藤 秀明（日本写真家協会会員）
委 員：瀬戸 豊彦（風景写真家）
委 員：榎戸 勝洋（フィルムアーカイブス青梅）
- 応募作品 236点（65名）
内訳 ・多摩川の風景・人々部門・・・146点
・多摩川夢の桜街道 部門・・・ 90点

（総評）

○今回の応募作品の特徴として、ややマンネリ化しているのが気になった。多摩川の風景と人々部門の募集方法がやや曖昧であった。風景にこだわる人は、人物と一緒に撮影しないため、人物のない分、飛び抜けた風景写真の応募がなかった。多摩川の風景と人々部門の作品に、前例踏襲やマンネリの傾向が見られた。桜については、もっと幅広く見ていただきたい。派手に咲くものだけでなく、散る様子にも目を向けていただきたい。今後の皆さんの更なる研鑽を期待する。

（感想・意見）

- 入賞するための技術（合成・レタッチ等）を持った人の写真が上位を占めるのは、写真文化として良いのか？手を加えずストレートに撮った写真が、同じ土俵で審査を受けるのはやや問題である。
- 広報の仕方にもよるが、もっと多くの応募者・応募点数があってもよいのではないか。
- 応募者の高齢化が進んでいるので、若い方の応募をどう喚起したら良いのか、今後の課題である。

以 上